

## 原爆被爆者における卵巣がんの放射線リスク: 1958–2009 年

放射線被ばくと卵巣がんとの関連性を示す証拠は限られています。この研究では、前回の報告から追跡期間を 11 年追加し、寿命調査\*集団の原爆被爆者の女性 62,534 人を対象に 1958 年から 2009 年の卵巣がん発生の放射線リスク（危険度）を専門的な統計解析法を用いて卵巣がん全体とタイプ別に評価しました。

その結果、卵巣がん全体のリスクは線量に対して増加傾向にあり、また、放射線の影響は卵巣がんのタイプにより異なることが示唆されました。被ばくからの時間と被爆時年齢による放射線リスクの変化は明らかではありませんでした。今後、卵巣がん全体およびタイプ別の放射線リスクの傾向をより正確に検討するためにさらなる追跡が必要であると思われる。

### \*寿命調査:

原爆放射線が死因やがん発生に与える長期的影響の調査を主な目的としています。1950 年の国勢調査の際に、原爆当時に広島・長崎にいたことが確認された人の中から選ばれた約 94,000 人の被爆者と、約 27,000 人の原爆当時に市内にいなかった人から成る約 12 万人の対象者を追跡調査しています。

doi: 10.1667/RADE-20-00170.1

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は出版社の論文をご覧ください。